

古今東西、昔から伝えられているおとぎ話から現代の映画やマンガまで、お金や経済にまつわる物語は数え切れないほどたくさんあります。今回は大人も楽しめる童話として広く知られるイソップ物語を取り上げます。

第4回

現代を生きるヒントがいっぱい！

童話「イソップ物語」

世界中で読まれているイソップ物語。「アリとキリギリス」や「金の卵を産むガチョウ」など、子どものころ読んだ絵本を思い出す方も多いかもしれません。古代ギリシアで生まれたといわれ、日本にはキリスト教宣教師によって持ち込まれた後、江戸時代の初期からは「伊曾保（いそほ）物語」として広く紹介され親しまれてきました。

神々や人間以外にも、動物や昆虫、太陽や風などの自然現象までが主人公となり、寓意に満ちた物語が展開します。数百もある話の中から、今回はお金に関する教えにも繋がるお話をいくつか紹介しましょう。

まずは「怠け者のカラス」。自分の羽と餌のネズミを物々交換することで、働かないで食べ物を得られる生活を送っていたカラス。

やがてすっかり太ってしまった一方で、羽はなくなり飛べないことに気付いたとき、キツネに襲われ食べられてしまうというお話です。シンプルがゆえに、勤労の大切さと蓄えを使い果たす恐ろしさを思い知らされます。

また、ケチで欲深な男が全財産を金塊に換え、秘密の場所に隠して毎日それを眺めていました。ある日それを泥棒に盗まれてしまい、泣き叫んで嘆いている男に隣人はこう言い放ちます。「代わりに石を埋めておくといい。持っているだけなら同じことだ」。資産は持っているだけでは意味がなく、活かすことが肝心ということを教えてください。

こんな話もあります。住んでいた沼地が干上がってしまい、新天地を探していた一匹のカエルが、やっこのことで、水をたたえた深



い井戸を見つけます。大喜びですぐさま飛び込もうとする一匹のカエルに対し、もう片方が「こんな深い井戸、もし干上がってしまったら、どうやって外に出るのか？」と諭します。儲かりそうな話に安易に飛び付かないという、資産運用における心得にも通じますね。

イソップ物語には、人間の賢さ、愚かさ、仕事、友情、家族など、人生にとって大切なさまざまな教訓が含まれています。ここでは、主人公たちが、欲や浅知恵によっておかしな失敗を繰り返します。そんな愚かな主人公を笑ううちに、実は私たち自身も同じだと気付かせてくれるのです。長年、人びとに語り継がれてきた物語だけに、読めば読むほど味わい深くなります。皆さんも折に触れ読み返す本を持っていますか。

参考資料：「イソップ物語」新書館、「イソップの暗号」無双舎、「イソップ寓話の経済倫理学」PHP研究所ほか